

大事協だより

大島地区公立小・中学校事務職員協会 研修部

第25号 2009年7月14日発行

2009年度が始まり、夏の空を見上げる頃となりました。

先月は今年度第1回目の地区事務職員研修会が、県立奄美図書館で開催され、普段は会えない顔にも会え、話ができ、日常とは違う「心の余裕」の源をお互い作れたのではないのでしょうか？

今年度もみなさんにとって、この紙面が同じ気持ちを分かち合える事務職員同士の語らいの場になりますよう研修部で頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

大事協の基本理念

今年度の総会で基本理念の改定が承認されましたので御確認ください。

- ① 大島地区小・中学校事務職員全員参加の「輪(わ)＝会」を目標とする。
- ② 本会は、地区内の緩やかな繋がり・親睦・融和・資質向上を目指す。
- ③ 大島地区内における情報交換の場とする。
- ④ 実務研修の充実を図る。

慶弔規定の改定

入院お見舞いの期間の改定が承認されましたので、御確認ください。

第1条4 会員の入院(期間2週間以上)に際してはお見舞い(3,000円)をする。

役員紹介

5月29日(金)の総会で、新役員が承認されましたので、改めてお知らせします。監事についても下記のように選出されましたので、お知らせします。

今年度も、今までの輪の繋がりを大事に頑張っていきますので、よろしくお願いいたします。

| 職名 | 氏名 | 勤務校 |
|-----|------------|--------|
| 会長 | 泉 一 | 大川小中学校 |
| 副会長 | 鳥越 正人 | 節田小学校 |
| 副会長 | 宮田 由美子 | 龍瀬小学校 |
| 書記 | 武田 洋明 | 田検小学校 |
| 会計 | 高橋 健太郎 | 伊仙小学校 |
| 監事 | 天城町から選出予定 | |
| 監事 | 徳之島町から選出予定 | |

◇泉会長より一言◇

先日の総会も無事済ませることができ、ありがとうございました。協会設立の理念もより明確な表現へ改正することができ、うれしく思っています。役員も会長を除き総入れ替えとなり、新たな出発の年になるのではと期待しています。本県においても「学校事務の共同実施」が制度化され、何か落ち着かない状況の学校現場ですが、会員皆様の研修の成果や、いろいろな情報を共有できればと考えています。本年度も会員の皆様の積極的な参加をよろしくお願いいたします。

◇副会長(研修)を務めて頂いた龍南中・藤崎先生より◇

2004年度より副会長として務めさせていただきました。大事協だよりも第6号から第24号まで、無事に発行することができました。この日が迎えられたのも、泉先生や理事の方々を始め、多くの方々のおかげです。お世話になりました。今は、ほっとした気持ちと、少し寂しい気持ちがあります。これからは、執行部として勉強させていただいた分、大事協へ協力していきたいと思っております。

大島地区の事務職員が海や山を隔ててつながっている大事協ですので、これからも全員が参加し、発展していくよう祈っています。ありがとうございました。



◇副会長(総務)を務めて頂いた天城小・幸多先生より
りひと言は、今回、各地区からのたよりに寄せていただいています。◇

◇書記を務めて頂いた円小・松久保先生より◇

昨年度1年間だけでしたが、書記という大役を勤めさせていただきました。昨年度の研修担当副会長、龍南中藤崎先生からの打診を何も考えず、あっさり引き受けてなった書記でしたが、普段、小規模校でのんびり仕事をしている私にとって、とてもいい刺激となりました。また、大事協に携わる素敵な先生方を通して、大事協の「輪(わ)」の大切さを実感することができました。中途半端な仕事しかできないまま、執行部から去ってしまったのは心残りの気もしますが、書記の仕事は田検小武田先生に引き継いで、大事協の活動がより円滑に行われることを一会員として応援しています。1年間お世話になりました。

◇会計を務めて頂いた小湊小学校・川崎先生より◇

2007年度から2年間、執行部の皆さんに支えられ、また理事の皆さまにはご迷惑を掛けながら、なんとか無事に会計の職務を務めることができました。・・・とりたいところですが、最後の最後にやってしまいました(泣)。総会で混乱を招いてしまい、大変申し訳ございませんでした。この場を借りてお詫び申し上げます。きちんと修正をして、しっかりと高橋先生に引継ぎたいと思います。

思い返せば、泉先生の熱いラブコールを受け、会計を引き受けることになったのですが、正直最初は嫌で嫌でたまりませんでした。理事会ではベテランの先生たちに囲まれながら、胃がキリキリする思いで参加していました(笑)。でも、この会計という職に就いて、色んな先生たちと話しをすることができたり、様々な情報交換ができたりと、事務職員としてすごく視野が広がりました。是非、若手の皆さんにお勧めしたいです。ためになることが沢山ありますよ。

今回で執行部を去ることになりますが、今度は会員として、大事協の活動に貢献できたならなと思います。皆さんどうもありがとうございました。

<地区交流会多数参加

ありがとうございました>

5月29日(金)第1回地区事務職員研修会の終了後、地区交流会を開催しました。事務所の方々を含め83名の出席がありました。時間がない中、準備・受付をしていただいた福利厚生部の方々、ありがとうございました。

地区交流会の収支については、下記のとおりです。

1. 収入
 - ①地区交流会費

| | |
|---------------------|---------------------|
| 会員 | 78名×3,000円=234,000円 |
| 事務所 | 4名×4,000円=16,000円 |
| 追加参加者 | 1名×3,000円=3,000円 |
| ②福利厚生部活動費より交流会補助として | 78,000円 |
| 合計 | 331,000円 |
2. 支出

| | |
|---------|----------|
| 料理・飲み物代 | 330,460円 |
|---------|----------|
3. 残金

| | |
|-----------------------|------|
| 331,000円 - 330,460円 = | 540円 |
|-----------------------|------|

以上 大事協 会計 川崎 亮

*川崎先生、お疲れ様でした。

今年も暑くないそうですね～



<各地区からのたより>

今回の原稿は、①知名町②天城町③瀬戸内町から届きました。各地区の研修への取り組み方、また、何を感じる事務職員になるのかを考える心に響いたよりを寄せていただきました。

①知名町

○知名町事務職員会の取り組み○ 田皆中学校・平山, 知名中学校・嶋原

【本会について】

私たちは、小・中あわせて7校7名で構成されています。うち4名が初～3年目であり、今年度は平均年齢がグッと下がりました。経験の浅い事務職員が多いのですが、ベテラン（と呼ぶのも申し訳ないほど若い方も…）の知識と経験を核に、若手のフットワークと新鮮な感覚を交えて、のびのびと活動しています。

本町の体制として、年5回の認定事務研修会と年10回開催の事務職員研修会を併行させながら、「正確かつ適切な事務処理」「責任ある、信頼される認定事務」を目指しています。

【認定事務への取り組み】

年5回の認定事務研修会は、以下の通りです。

- ①4月 異動に伴う認定事例が多い。終日。
- ②5月 4月末報告の給与への反映を確認。半日。
- ③6月 児童手当現況届の相互点検等。半日。
- ④11月 研修を主体として開催。半日。
- ⑤1月 現年度総括と次年度への計画立案。半日。

実際の方法は、独自に作成した「認定協議結果報告書」をベースに、記載している点検項目に従って全件を全員で相互点検しています。また「諸手当認定・電算マニュアル」（県事協）で記載方法や法的根拠を確認し、協議を行っています。

相互点検及び協議の際に疑義が生じた場合は、教育事務所の担当者と連絡をとり、＜曖昧・不明のままに放置しない＞＜議論に終始し結論出ずのままに先に進まない＞という方向性をとっています。

そうしたなかで、上述の作業がより効率的になるよう、伺い書の様式や記載事項の統一を図っています。

【今年度の取り組み】

昨年度より、町費事務（①町予算②就学援助③補助金④備品）のマニュアル作成を行っています。

主に転入者向けに手順の説明や様式を掲載していますが、経験の浅い事務職員が多いので、説明に図を用いたり、かみ砕いた表現をするよう心がけています。

もちろん町教委の担当者に目を通してもらい、また「実際に使ってみないとわからない」ということで、マニュアルに則して業務を行いながら修正箇所を確認しています。ゆくゆくは差し替え式で内容の更新をしていけるよう整理する予定です。

まだまだ途上ではありますが、手順や様式を統一することで、互いの業務のチェックがしやすくなり、誰でも初任者にアドバイスができるようになりました。（各々から

違うことを言われると混乱してしまうので。）

また、異動時の引継も校内のことに焦点を絞って行えるようになるのではないかと、マニュアル作成の効果を期待しています。



【今後の課題】

平成19年度は認定事務の実務担当者として右往左往しましたが、各々がスキルアップし、翌年度には「相互点検及び協議による諸手当認定事務」が確立しつつあると感じました。そして今年度は認定事務に注いできた労力を、徐々に他へ振り向けています。認定・町費ともに手順や様式の統一を行うなかで共通認識を持てるよう、より充実した研修を目指して日々努力しています。

②天城町

○「和を以て貴しと為す」○



天城町事務職員部会

平成20年度大事協副会長 幸多勝弘



平成20年度 管外事務職員研修会
鹿屋農業高校 元 兼久小学校 江平先生勤務校

「農業高校に勤務する先生方が生き物を相手に時間外も生徒と共に頑張っている姿に感動！」



8月30日、31日 与論の旅

与論地区の事務職員の先生方や他の教員も含めて交流が出来ました。夜は内倉先生の三味線、昼はポートで百合が浜へ。

島内観光とアードロ焼きで焼き物に挑戦

「この人達は初めてでないみたい！」と言われた出来映えに皆満足。

与論のみなさん、ありがとう！

さて、今年は奄美の歴史から見ると「薩摩侵攻400年」という1609年以来、400年の節目の年である。

私は徳之島郷土研究会の副会長として微力ながら活動している。つい先日は仲間が西阿木名地区で厨子甕といわれる琉球作りの骨壺を発見した。このことは1700年代の薩摩圧政の時代も島の人々（島役人など豪農）が琉球と往来していたことを証明する。

また、徳之島三町人権同和教育（小中高）の会長もしているが「島を誇れることもたちの育成」が目標である。そのためには教職員が足下の当たり前の「自然と歴史、文化」を知り、学び、伝える「地元学」の視点が大切である。

私たち事務職員が「学校にいてこそその学校事務職員」と言われる所以はどこにあるか。

まず子どもを点数で見ない職種である、ということ。子どもを点数で見たり過去をくどくど言わない「そのまんまの子どもを受け入れてくれる」寛大な職種。叱るより褒める場面が多い、といいですね。

次に地域とのジョイント役である、ということ。

これが一番「陸の孤島」と呼ばれる学校にあって、大切な要素を持っています。先日も「徳之島の球技大会（県民大島地区大会の前哨戦）の日になんと、日曜参観授業を実施、『学校はおかしいんじゃないの?』』このような声が地域から出ないように、情報をキャッチし学校経営に参画するのです。

学校事務職員としての誇りは「学び」という「攻め」の姿勢から生まれます。そして伝えるのです。

一人でなく、仲間と共に悩み喜び人生を拓くのです。



③瀬戸内町

○瀬戸内町事務職員会について○

瀬戸内町事務職員会(押角小学校・川田)

平成21年度の瀬戸内町事務職員会は、1人定数減となり、10名で構成しています。

地理的には、本島（古仁屋）側、加計呂麻島、請島、与路島と海を隔てて学校が存在しています。しかも殆どが兼務校を抱えていて、研修会実施やまた年度末および年度初めの事務処理や旅費計算等は大変です。

瀬戸内町では『ゆとりある教育を支援するための学校事務の充実』という研修テーマを、平成20年度から掲げ、職員に配布する資料、効率的な事務処理を可能にする様式の電算化・改善、諸手続の簡便化を充実するという考えで、昨年度までは月1回1日の全体研修を実施していました。それに、諸手当認定事務等に係る相互支援会を月1回半日の日程で開催しています。

年度当初は、単身赴任手当や通勤手当など判断に困る認定事項や件数もたくさんあり相互支援が役に立っています。

それから、ブロック別（本島側、加計呂麻側、請・与路側）に年4回の自主検査を相互監査で実施することによりお互いの間違いをなくそうとしています。

平成21年度も前年度と同じ研修テーマで、事務職員会・相互支援会・ブロック別自主検査を、例年通り行う予定で年間計画を立てています。

それと、学校事務の共同実施の公文が出されたので、そのことに関する研修等も行いながら事務職員会の活性化を図りたいと思っています。そして、子どもたちのために、各学校での教育条件整備に取り組むために、円滑な事務処理に努めたいと考えています。

瀬戸内町からは「ある感動」をそのまま私達に伝えてくださった便りも頂いています。

『第17回奄美シーカヤックマラソン

in 加計呂麻島 大会』に参加して

瀬戸内町立秋徳小学校 盛山 喜昭

毎年6月末～7月初めの日曜日に瀬戸内町の大島海峡を舞台にシーカヤックマラソン大会が開催されます。今年の7月5日の大会に自分も参加してみました。

シーカヤックとは、海洋のカヤックのことです。カヤックとは手漕ぎボートの一種で、クローズドデッキ（下半身を船の中に入れる）であり、水かきが左右両側にあるパドルを用いて漕ぎます。大抵は舵がついているので、自分の思うままに海面を移動することが出来ます。

この日は、前日に梅雨も明け、天気も良く、波も穏やかで絶好のシーカヤック日和でした。あとで聞いた話によると、過去数年間の中でも最高のコンディションだったそうです。

瀬戸内町役場前の港から出発し、奄美大島沿いを東に進み、途中から大島海峡を横断して加計呂麻島に渡り、加計呂麻島沿いの渡連から俵小島まで、そして俵小島から古仁屋まで再び大島海峡を渡るという37kmのコースです。

エメラルド色の海の上を、様々な色のシーカヤックが浮かんでいた光景は、とても素晴らしいものでした。また、水深の浅い所では、海底の珊瑚やそこを泳いでいる魚さえも見る事ができ、見るもの全てに感動してしまいました。

約4時間の船旅でしたが、十分に楽しむことができました。

是非、来年は皆さんも参加してみてください。

なお、シーカヤックを持っていなくても、加計呂麻島及び請島、与路島にある小・中学校にはシーカヤックが3～5艇配備されています。貸し出しも行っていきますので、気軽に問い合わせしてみてください。お待ちしております。



写真の提供は、2年前まで奄美市立知根小学校に勤務されていた平野謙治先生です。

なんと、昨年に引き続き自前のカヤックで、今回もこの大会に鹿児島から出場されました。ありがとうございました。

○編集後記○

まずは発行が遅れましたことをお詫び申し上げます。また、お忙しいなかで原稿を提供して下さい、本当にありがとうございました。

さて、あっという間に7月を迎え、さあ夏季休暇だ！…とはいかない方もいらっしゃることでしょう。暑さに負けず、公私ともに充実した夏でありますように

○お知らせ○

次号No.26号は10月下旬発行予定です。8月上旬頃から原稿依頼にかかることとなります。①和泊町②宇検村③奄美市東部ブロック④奄美市西部ブロックが担当です。よろしくお願ひします。